

2003 年（平成 15 年）感染症発生動向調査結果  
- 患者情報 -

2003年(平成15年)感染症発生動向調査事業 報告週対応表

1月							
週	月	火	水	木	金	土	日
1			1	2	3	4	5
2	6	7	8	9	10	11	12
3	13	14	15	16	17	18	19
4	20	21	22	23	24	25	26
5	27	28	29	30	31		

7月							
週	月	火	水	木	金	土	日
27		1	2	3	4	5	6
28	7	8	9	10	11	12	13
29	14	15	16	17	18	19	20
30	21	22	23	24	25	26	27
31	28	29	30	31			

2月							
週	月	火	水	木	金	土	日
5						1	2
6	3	4	5	6	7	8	9
7	10	11	12	13	14	15	16
8	17	18	19	20	21	22	23
9	24	25	26	27	28		

8月							
週	月	火	水	木	金	土	日
31					1	2	3
32	4	5	6	7	8	9	10
33	11	12	13	14	15	16	17
34	18	19	20	21	22	23	24
35	25	26	27	28	29	30	31

3月							
週	月	火	水	木	金	土	日
9						1	2
10	3	4	5	6	7	8	9
11	10	11	12	13	14	15	16
12	17	18	19	20	21	22	23
13	24	25	26	27	28	29	30
14	31						

9月							
週	月	火	水	木	金	土	日
36	1	2	3	4	5	6	7
37	8	9	10	11	12	13	14
38	15	16	17	18	19	20	21
39	22	23	24	25	26	27	28
40	29	30					

4月							
週	月	火	水	木	金	土	日
14		1	2	3	4	5	6
15	7	8	9	10	11	12	13
16	14	15	16	17	18	19	20
17	21	22	23	24	25	26	27
18	28	29	30				


10月							
週	月	火	水	木	金	土	日
40			1	2	3	4	5
41	6	7	8	9	10	11	12
42	13	14	15	16	17	18	19
43	20	21	22	23	24	25	26
44	27	28	29	30	31		

5月							
週	月	火	水	木	金	土	日
18				1	2	3	4
19	5	6	7	8	9	10	11
20	12	13	14	15	16	17	18
21	19	20	21	22	23	24	25
22	26	27	28	29	30	31	

11月							
週	月	火	水	木	金	土	日
44						1	2
45	3	4	5	6	7	8	9
46	10	11	12	13	14	15	16
47	17	18	19	20	21	22	23
48	24	25	26	27	28	29	30

6月							
週	月	火	水	木	金	土	日
22							1
23	2	3	4	5	6	7	8
24	9	10	11	12	13	14	15
25	16	17	18	19	20	21	22
26	23	24	25	26	27	28	29
27	30						

12月							
週	月	火	水	木	金	土	日
49	1	2	3	4	5	6	7
50	8	9	10	11	12	13	14
51	15	16	17	18	19	20	21
52	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				

 「愛媛県感染症情報」発行日

## 2003年(平成15年)感染症発生動向調査結果 - 患者情報 -

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」が平成15年11月5日に改正され、対象疾患および感染症類型が見直された。本報告書では、基本的に改正後の分類を用いて集計を行うこととし、県内の届出数については11月5日以前に届出された分も含めて、法改正後の分類で集計を行った。

## 1 全数把握対象 一～五類感染症

## (1) 一類感染症

一類感染症の届出はなかった。

## (2) 二類感染症

## 細菌性赤痢

細菌性赤痢は3人の届出があった。患者の年齢は30歳代、40歳代、50歳代各1人ずつであり、いずれも男性であった。推定感染地は、海外2人(タイ、インドネシア)、日本国内1人であった。分離された菌型は3人ともソソネ型であった。

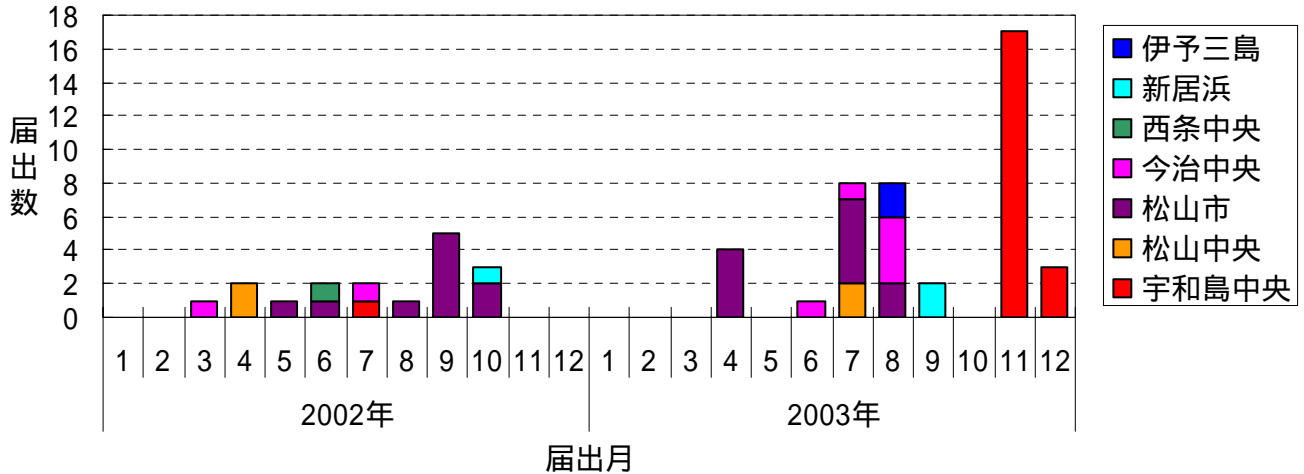
## (3) 三類感染症

## 腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症は14事例43人の届出があり、14事例中9事例は7～8月の夏季に届出があった。本感染症は、通常夏場に患者数が増加する傾向があるが、2003年は、宇和島中央保健所管内で保育園での集団感染事例(事例番号14)があったため、11月末から12月にかけて届出数が増加した。性別は男性21人、女性22人で、年齢別では10歳未満24人、10歳代7人、20歳代2人、30歳代4人、40歳代4人、60歳代1人、80歳代1人であり、10歳未満が56%を占めた。血清型はO157が41人、O26が2人であった。

事例番号	届出月日	発生地 (患者所在地)	血清型	患者・感染者数
1	4月4日	松山市	O157	1
2	4月5日～	松山市	O157	3
3	6月28日～	越智郡	O26	2
4	7月4日～	温泉郡	O157	2
5	7月15日	松山市	O157	1
6	7月17日	松山市	O157	1
7	7月23日～	松山市	O157	2
8	7月30日	松山市	O157	1
9	8月5日	松山市	O157	1
10	8月8日	松山市	O157	1
11	8月18日～	伊予三島市	O157	2
12	8月21日～	今治市	O157	4
13	9月26日～	新居浜市	O157	2
14	11月20日～	宇和島市	O157	20
合 計				43

腸管出血性大腸菌感染症 月別届出数 (2002～2003年)



(4) 四類感染症

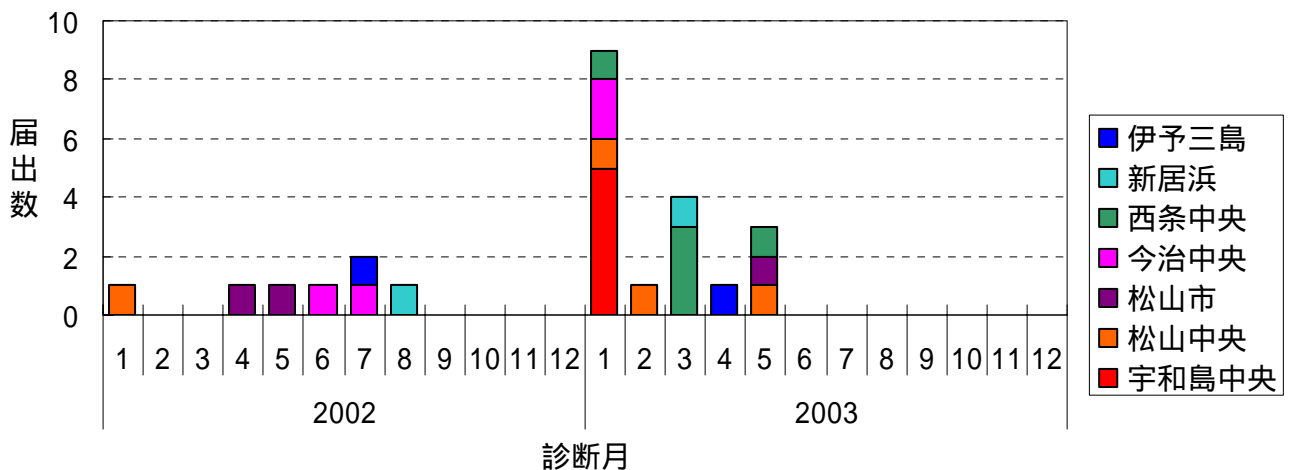
E 型肝炎

E 型肝炎はインドでの感染が推定される 30 歳代男性 1 人の届出があった。E 型肝炎は 1999 年の報告開始以降、県内では初めての届出であった。

A 型肝炎

A 型肝炎の届出は、1999 年の報告開始以降 3 人 (1999 年)、12 人 (2000 年)、2 人 (2001 年)、7 人 (2002 年) と推移していたが、2003 年は 18 人と最も多い届出があった。月別の届出数は 1 月から 5 月の初夏までに 17 人であり、7 月に届出があった 1 人も診断日は 5 月であった。保健所別では伊予三島 1 人、新居浜 1 人、西条中央 5 人、今治中央 2 人、松山中央 3 人、松山市 1 人、宇和島中央 5 人であり、宇和島中央保健所管内の 5 人についてはいずれも診断日が 1 月下旬に集中していた。推定される感染地域は日本国内が 17 人、不明 1 人であり、推定飲食物の記載があった国内感染例 2 例はいずれもカキ等の貝類によるものと推定されていた。患者の性別は男性 11 人、女性 7 人、年齢は、10 歳代 3 人、20 歳代 3 人、30 歳代 2 人、40 歳代 3 人、50 歳代 2 人、60 歳代 3 人、70 歳以上 2 人であった。

A型肝炎 月別届出数 (2002～2003年)



### 日本紅斑熱

2003年9月に2人の届出があり、県内で感染が確認された初めての事例であった。松山市および宇和島中央保健所からの届出で、それぞれ60歳代女性、50歳代女性であった。近隣の高知、徳島両県では多数の患者が発生しており、今回県内での感染が確認されたことから、今後医療機関や一般住民への情報提供が必要と考えられた。

### マラリア

四日熱と熱帯熱マラリアの混合感染が1人、三日熱マラリアが1人の合計2人の届出があった。両事例とも40歳代男性であり、推定感染地域はともにミャンマーであった。

### レジオネラ症

40歳代男性1人の届出があった。日本国内での感染が推定されたが、感染経路は不明であった。

## (5) 五類感染症

### アメーバ赤痢

アメーバ赤痢は3人の届出があった。年齢は50歳代2人、60歳代1人であり、性別はすべて男性であった。推定される感染地域は、日本国内が2人、不明1人であり、いずれも推定感染経路は不明であった。

### ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く）

2003年11月5日の感染症法の一部改正により、従来「急性ウイルス性肝炎」として報告されていたもののうち、「E型肝炎」及び「A型肝炎」は四類感染症として分けられ、それ以外のウイルス性肝炎が当該分類として報告されることとなった。県内の届出数については、11月5日以前に届出された分も含めて、法改正後の分類で集計することとした。

ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く）として6人の届出があり、B型3人、C型2人、不明1人であった。B型肝炎は20歳代男性2人、20歳代女性1人であり、推定される感染経路は異性間性的接触2人、不明1人であった。C型肝炎は60歳代女性1人、80歳代女性1人であり、推定される感染経路は不明であった。なお、4月に届出のあったウイルス型不明の30歳代男性1人については、同時期に伊予三島保健所から届出のあったA型肝炎患者の同居者であった。

### クロイツフェルト・ヤコブ病

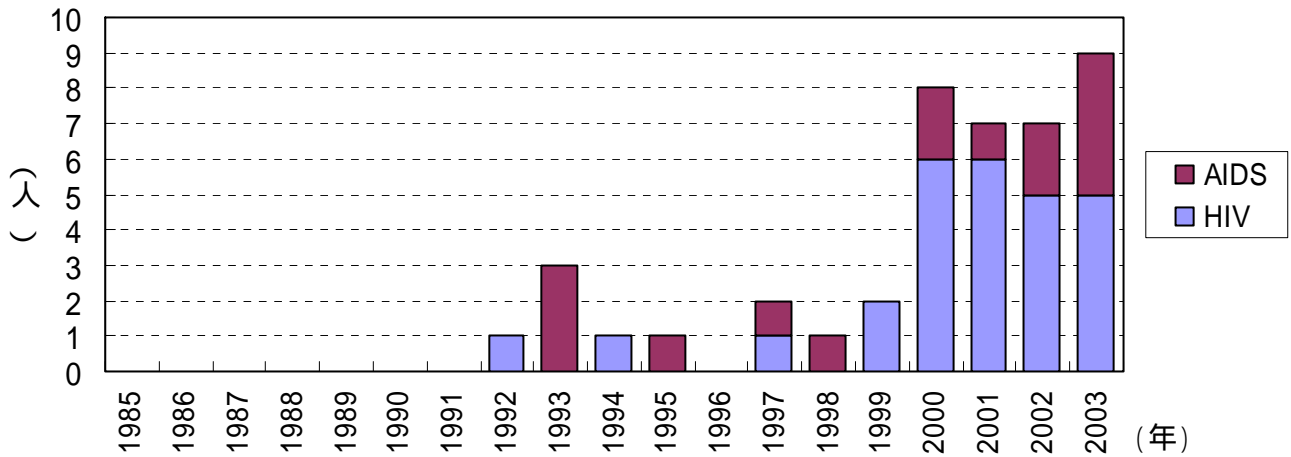
クロイツフェルト・ヤコブ病は2人の届出があった。70歳代男性1人、80歳代女性1人であり、いずれも弧発性であった。

後天性免疫不全症候群

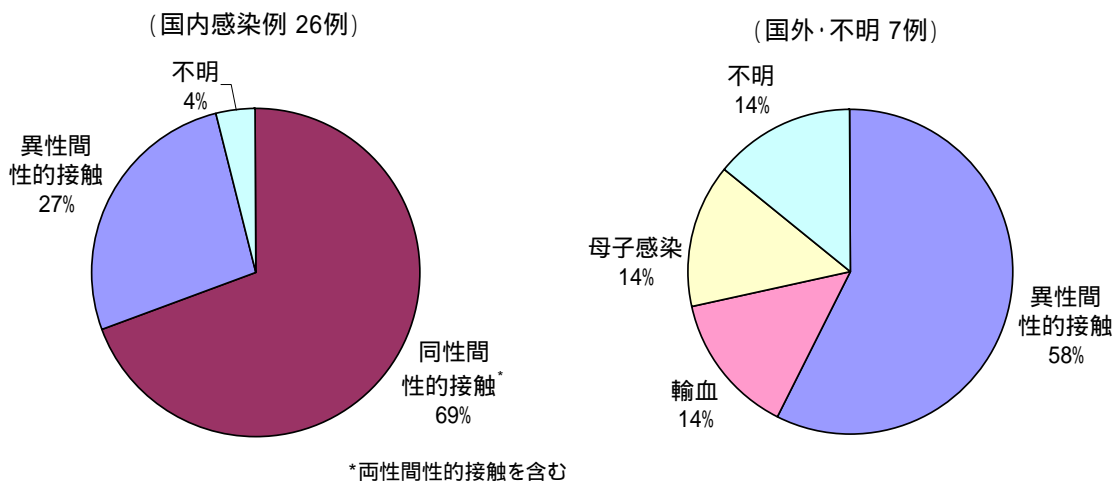
後天性免疫不全症候群は9人の届出があり、そのうち無症候性キャリア(HIV感染者)5人、AIDS 4人であった。年代別の届出数(うちAIDS数)は20歳代3(1)人、30歳代2(1)人、40歳代2(1)人、50歳代1(1)人、60歳代1人であり、性別はすべて男性であった。推定感染地域は日本国内8人、インドネシア1人であり、感染経路が推定された8人はすべて性的接触によるもので、同性間5人、異性間2人、異性・同性間1人であった。

県内のHIV感染者及びAIDS患者数の年次推移をみると、1992年にHIV感染者が届出されて以降1999年までは毎年1~3人の届出数で推移していたが、2000年以降は年間届出数7~9人と多い状態が続いている。1999年4月1日以降感染症法に基づいて届出された33例の感染経路別内訳は、国内感染例26例のうち18例(69%)が男性の同性間性的接触であり、全国的な傾向と同様、県内でも男性の同性間性的接触による感染がHIV感染者及びAIDS患者の増加要因と考えられる。

愛媛県におけるHIV感染者及びAIDS患者の年次推移



HIV感染者及びAIDS患者の感染経路別内訳 (1999年4月1日以降届出者)



### ジアルジア症

ジアルジア症は 1 人の届出があった。2000 年以降毎年 1 人の報告が出ている。患者は 1 歳の女兒であり、日本国内での感染が推定されている。

### 梅毒

4 人の届出があり、早期顕症梅毒(一期)が 1 人、無症候梅毒が 3 人であった。性別及び年齢は、50 歳代男性 2 人、50 歳代女性 1 人、80 歳代男性 1 人であった。推定される感染地域・感染経路は、日本国内での異性間性的接触が 2 人、不明が 2 人であった。

### 破傷風

70 歳代男性 1 人、80 歳代女性 1 人の合計 2 人の届出があり、いずれも臨床決定による報告であった。両事例とも日本国内での感染、及び、外傷による感染経路が推定されていた。

表 2-1-1 全数把握対象疾患発生状況(年推移)

感染症類型	疾病名	愛媛県					全国				
		2003	2002	2001	2000	1999	2003	2002	2001	2000	1999
一類	エボラ出血熱										
	クリミア・コンゴ出血熱										
	重症急性呼吸器症候群(SARS-CoVに限る)*		-	-	-	-		-	-	-	-
	痘そう*		-	-	-	-		-	-	-	-
	ペスト										
	マールブルグ病										
二類	ラッサ熱										
	急性灰白髄炎									1	
	コレラ						24	51	50	58	39
	細菌性赤痢	3	6	7	50	2	459	699	844	843	620
	ジフテリア									1	2
	腸チフス			2			60	63	65	86	72
三類	パラチフス						38	35	22	20	30
	腸管出血性大腸菌感染症	43	17	53	28	32	2,635	3,183	4,435	3,642	3,117
四類	E型肝炎	1					2	-	-	-	-
	ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)			-	-	-			-	-	-
	A型肝炎	18	7	2	12	3	12	-	-	-	-
	エキノコックス症						17	10	15	22	7
	黄熱										
	オウム病						44	54	35	18	23
	回帰熱										
	Q熱					5	9	47	42	24	12
	狂犬病										
	高病原性鳥インフルエンザ*		-	-	-	-		-	-	-	-
	コクシジオイデス症						1	3	2	1	
	サル痘*		-	-	-	-		-	-	-	-
	腎症候性出血熱										
	炭疽										
	つつが虫病				1		380	338	491	791	556
	デング熱						31	52	50	18	9
	ニバウイルス感染症*		-	-	-	-		-	-	-	-
	日本紅斑熱	2					51	36	40	38	39
	日本脳炎			1			1	8	5	7	5
	ハンタウイルス肺症候群										
Bウイルス病											
ブルセラ症							1				
発疹チフス											
ポツリヌス症										1	
マラリア	2	3				77	83	109	154	112	
野兔病*		-	-	-	-		-	-	-	-	
ライム病						5	15	15	12	14	
リッサウイルス感染症*		-	-	-	-		-	-	-	-	
レジオネラ症	1	1				144	167	86	154	56	
レプトスピラ症*		-	-	-	-	1	-	-	-	-	
五類	アメーバ赤痢	3		3	4	1	505	465	429	378	276
	ウイルス性肝炎(E型肝炎、A型肝炎を除く)	6	2	3	15	18	636	948	929	991	1,519
	急性脳炎(ウエストナイル脳炎、日本脳炎を除く)*		-	-	-	-	11	-	-	-	-
	クリプトスポリジウム症						8	109	11	3	4
	クロイツフェルト・ヤコブ病	2		3		1	115	147	133	108	92
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症		3			1	52	92	47	47	22
	後天性免疫不全症候群	9	7	7	8	2	949	916	947	794	588
	ジアルジア症	1	1	1	1		100	113	137	98	42
	髄膜炎菌性髄膜炎						17	9	8	15	10
	先天性風しん症候群						1	1	1	1	1
	梅毒	4	7	6	11	13	493	575	585	759	751
	破傷風	2	4	5	1	1	69	106	80	91	66
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症*		-	-	-	-		-	-	-	-
バンコマイシン耐性腸球菌感染症						55	44	40	36	23	
計		97	58	93	131	79	7,002	8,370	9,653	9,211	8,107

注1: 1999年の報告数については4月から12月までの数値である。

注2: (\*)の疾患については2003年11月5日からの数値である。

注3: 全国の2003年の報告数については概数である。なお、E型肝炎及びA型肝炎については11月5日からの数値である。

注4: 全国のウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く)の報告数については、2003年11月5日以前はE型肝炎及びA型肝炎を含む。



表 2-1-2 2003年全数把握対象疾患発生状況(月別)

平成15年1月1日～平成15年12月31日

感染症類型	疾病名	月												
		計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
一類	エボラ出血熱													
	クリミア・コンゴ出血熱													
	重症急性呼吸器症候群(SARS-CoVに限る)*													
	痘そう*													
	ペスト													
	マールブルグ病													
二類	ラッサ熱													
	急性灰白髄炎													
	コレラ													
	細菌性赤痢	3	2			1								
	ジフテリア													
	腸チフス													
三類	パラチフス													
	腸管出血性大腸菌感染症	43				4		1	8	8	2		17	3
四類	E型肝炎	1												1
	ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)													
	A型肝炎	18	7	3	3	2	2		1					
	エキノコックス症													
	黄熱													
	オウム病													
	回帰熱													
	Q熱													
	狂犬病													
	高病原性鳥インフルエンザ*													
	コクシジオイデス症													
	サル痘*													
	腎症候性出血熱													
	炭疽													
	つつが虫病													
	デング熱													
	ニバウイルス感染症*													
	日本紅斑熱	2									2			
	日本脳炎													
	ハンタウイルス肺症候群													
	Bウイルス病													
	ブルセラ症													
	発疹チフス													
	ポツリヌス症													
	マalaria	2		1										1
	野兎病*													
	ライム病													
リッサウイルス感染症*														
レジオネラ症	1							1						
レプトスピラ症*														
五類	アメーバ赤痢	3			2									1
	ウイルス性肝炎(E型肝炎、A型肝炎を除く)	6		1		2	1		1					1
	急性脳炎(ウエストナイル脳炎、日本脳炎を除く)*													
	クリプトスポリジウム症													
	クロイツフェルト・ヤコブ病	2					1						1	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症													
	後天性免疫不全症候群	9		2	1	2		1	1	1		1		
	ジアルジア症	1							1					
	髄膜炎菌性髄膜炎													
	先天性風疹症候群													
	梅毒	4			2	1								1
	破傷風	2			1							1		
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症*													
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症													
計	97	9	7	9	12	4	4	11	9	5	1	21	5	

注:(\*)の疾患については2003年11月5日からの数値である。

表2-1-3 2003年全数把握対象疾患発生状況(保健所別)

平成15年1月1日～平成15年12月31日

感染症類型	疾病名	保健所名									
		計	伊予三島	新居浜	西条中央	今治中央	松山市	松山中央	大洲	八幡浜中央	宇和島中央
一類	エボラ出血熱										
	クリミア・コンゴ出血熱										
	重症急性呼吸器症候群(SARS-CoVに限る)*										
	痘そう										
	ペスト										
	マールブルグ病										
二類	ラッサ熱										
	急性灰白髄炎										
	コレラ										
	細菌性赤痢	3					2			1	
	ジフテリア										
三類	腸チフス										
	パラチフス										
三類	腸管出血性大腸菌感染症	43	2	2		6	11	2		20	
四類	E型肝炎	1					1				
	ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)										
	A型肝炎	18	1	1	5	2	1	3		5	
	エキノコックス症										
	黄熱										
	オウム病										
	回歸熱										
	Q熱										
	狂犬病										
	高病原性鳥インフルエンザ*										
	コクシジオイデス症										
	サル痘*										
	腎症候性出血熱										
	炭疽										
	つつが虫病										
	デング熱										
	ニバウイルス感染症*										
	日本紅斑熱	2					1			1	
	日本脳炎										
	ハンタウイルス肺症候群										
	Bウイルス病										
	ブルセラ症										
	発疹チフス										
ポツリヌス症											
マラリア	2						2				
野兔病*											
ライム病											
リッサウイルス感染症*											
レジオネラ症	1					1					
レプトスピラ症*											
五類	アメーバ赤痢	3			1		2				
	ウイルス性肝炎(E型肝炎、A型肝炎を除く)	6	4	1			1				
	急性脳炎(ウエストナイル脳炎、日本脳炎を除く)*										
	クリプトスポリジウム症										
	クロイツフェルト・ヤコブ病	2		1			1				
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症										
	後天性免疫不全症候群	9					5	4			
	ジアルジア症	1					1				
	髄膜炎菌性髄膜炎										
	先天性風疹症候群										
	梅毒	4		2			1	1			
	破傷風	2					2				
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症*										
バンコマイシン耐性腸球菌感染症											
	計	97	7	7	6	8	29	13		27	

注:(\*)の疾患については2003年11月5日からの数値である。

表 2-1-4 2003年全数把握対象疾患発生状況(年齢別)

平成15年1月1日～平成15年12月31日

感染症類型	疾病名	年齢														70歳以上			
		計	0歳	1歳	5歳	10歳	15歳	20歳	25歳	30歳	35歳	40歳	45歳	50歳	55歳		60歳	65歳	
一類	エボラ出血熱																		
	クリミア・コンゴ出血熱																		
	重症急性呼吸器症候群(SARS-CoVに限る)*																		
	痘そう*																		
	ペスト																		
	マールブルグ病																		
二類	ラッサ熱																		
	急性灰白髄炎																		
	コレラ																		
	細菌性赤痢	3								1		1	1						
	ジフテリア																		
	腸チフス																		
三類	パラチフス																		
	腸管出血性大腸菌感染症	43		12	12	4	3		2	2	2	1	3			1		1	
四類	E型肝炎	1								1									
	ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)																		
	A型肝炎	18				1	2	1	2		2	1	2	2		2	1	2	
	エキノコックス症																		
	黄熱																		
	オウム病																		
	回帰熱																		
	Q熱																		
	狂犬病																		
	高病原性鳥インフルエンザ*																		
	コクシジオイデス症																		
	サル痘*																		
	腎症候性出血熱																		
	炭疽																		
	つつが虫病																		
	デング熱																		
	ニバウイルス感染症*																		
	日本紅斑熱	2												1		1			
	日本脳炎																		
	ハンタウイルス肺症候群																		
	Bウイルス病																		
	ブルセラ症																		
	発疹チフス																		
ポツリヌス症																			
マラリア	2										2								
野兔病*																			
ライム病																			
リッサウイルス感染症*																			
レジオネラ症	1										1								
レプトスピラ症*																			
五類	アメーバ赤痢	3											2			1			
	ウイルス性肝炎(E型肝炎、A型肝炎を除く)	6						2	1		1					1		1	
	急性脳炎(ウエストナイル脳炎、日本脳炎を除く)*																		
	クリプトスポリジウム症																		
	クロイツフェルト・ヤコブ病	2																	2
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症																		
	後天性免疫不全症候群	9						1	2	1	1		2		1	1			
	ジアルジア症	1		1															
	髄膜炎菌性髄膜炎																		
	先天性風疹症候群																		
	梅毒	4												2	1				1
	破傷風	2																	2
計	97		13	12	5	5	4	7	5	6	5	8	8	2	6	2		9	

注:(\*)の疾患については2003年11月5日からの数値である。